

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600377
法人名	ベストケアカンパニー
事業所名	いきいきハウス池尻
所在地	〒827-0002 福岡県田川郡川崎町大字池尻字亀田887番地1 電話 0947-49-3705 FAX 0947-45-5885

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年5月2日	評価確定日	平成21年5月20日

【情報提供項目より】(平成 21年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	6	要介護2	1		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 78.8 歳	最低	71 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中越医院 よしかわ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いきいきハウス池尻は、住宅街にある池尻小学校の前に平成15年に開設された1ユニットのグループホームである。個人の尊厳、その人らしい生活、穏やかな安心と満足のある暮らし、家族的な楽しい雰囲気理念とし、開設当時より地区自治会に加入し地域と交流している。旧国道の大通りに開放するような広い駐車場と庭は、近くの小学生が学校の帰りにいつでも寄ることができ、庭で飼われた犬の散歩などのお世話で精神的に安定する入居者もいる。また、引きこもりがちな入居者の気分を明るくしたいと敷地入り口にお地藏さんを祀り、お参りに誘うなど、生活に潤いを持たせ活動的にしている。入居者の力量に応じて、食材の買い物や下ごしらえ、片付け等を支援したり、野菜作り、らっきょう漬けなどで経験を發揮してもらう機会を設けている。事業所主催の文化祭で参加した地域の方々を楽しんだり、公民館活動やバザーを出店した福祉祭りに全員で参加している。地域密着型サービスとして今後も地域との交流を促進し、さらなる理念の具現化に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートは作成されていないが、介護計画に基づくサービスを提供するために、毎日問題点を話し合い解決するようにしている。議事録が整備されている。また東京センター方式や独自のアセスメント様式で情報を収集し、介護計画作成に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	新規採用の職員が多く、全職員が評価の理解や活用するまでには至っていない。自己評価は運営者が職員に聞き取りながらまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議はホームドクター、区長、家族会代表、行政担当者で2ヶ月毎に開催している。行政担当者には実施要領が記載された委嘱状を交付している。事業所や家族の意見が報告され、会議録が整備されている。区長を通じて、近隣に外出傾向のある入居者の連絡や非常災害時の協力をお願いしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	週1回や月1回、家族が訪問する折に、ホーム内に掲示した行事等の写真を見て頂いている。協力医療機関や訪問看護等との連携で健康管理している。定期医療機関受診は家族の同行をお願いし、職員が同行した場合は随時家族に連絡し記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。成年後見制度の活用について、家族や入居者に説明はしているが、費用が掛かるため活用には至っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に加入、管理者は組長として区の会議に参加している。自治会活動であるゴミ箱周辺の管理に曜日を決めて入居者と参加している。公民館行事にも頻繁に参加のお誘いがあり、敬老会やクリスマス会に参加し、敬老会では職員の出し物が定番となっている。町の福祉祭りのバザーでうどんを出店し、入居者全員が参加している。入居者が作成した貼り絵等を展示した昨年の事業所主催の文化祭には、地域、家族、行政関係者等14~15名が訪れている。日ごろより小学生が文化祭や餅つき等の行事に参加したり、下校時の立ち寄りが見られ入居者は楽しみにしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日ごろから地域と交流し、地域密着型サービスの方針を運営規程・重要事項説明書に明記している。事務所入り口の壁に「高齢者の尊厳を守り、その人らしい生活、穏やかな安心と満足な暮らし、家庭的な楽しい雰囲気介護を提供する」との理念を掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が毎朝、朝礼で運営理念を唱和している。管理者は会議で理念について話し、介護計画にも取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、管理者は組長として区の会議に参加している。自治会活動であるゴミ箱周辺の管理に曜日を決めて入居者と参加している。公民館行事にも頻繁に参加のお誘いがあり、敬老会やクリスマス会に参加し、敬老会では職員の出し物が定番となっている。町の福祉祭りのバザーでうどんを出店し、入居者全員が参加している。入居者が作成した貼り絵等を展示した昨年の事業所主催の文化祭には、地域、家族、行政関係者等14～15名が訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新規採用の職員が多く全職員が評価の理解や活用するまでには至っていないが、自己評価は運営者が職員に聞き取りながらまとめている。改善計画シートは作成していないが、計画に基づくサービスを提供するために、毎日問題点を話し合い解決するようにしている。議事録が整備されている。	○	改善項目を明記したシートを作成することで、具体的な取り組みを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームドクター、区長、家族会代表、行政担当で2ヶ月毎に開催している。行政担当者には実施要領が記載された委嘱状を交付している。事業所や家族の意見が報告され、会議録が整備されている。	○	運営推進会議の目的・内容・メンバー、守秘義務や個人情報取り扱い等を明記した実施要領の整備や外部評価結果の報告をお願いしたい。また、欠席者への対応、また地域の民生委員への参加呼びかけ等でさらに充実した運営推進会議開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者に介護に関する情報提供や援助を受けたり、地域包括支援センターから入所相談を受けたりしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する研修会に参加している。成年後見制度の活用について、家族や入居者に説明はしているが、費用が掛かるため活用には至っていない。	○	入居者や家族に行った説明は、記録の整備をお願いしたい。成年後見制度等のパンフレット等を整備し、説明や伝達研修に活用していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	週1回や月1回、家族が訪問する折に、ホーム内に掲示した行事等の写真を見て頂いている。協力医療機関や訪問看護等との連携で健康管理している。定期医療機関受診は家族の同行をお願いし、職員が同行した場合は随時家族に連絡し記録している。預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に了承を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所及び関係機関の苦情担当窓口を明記し、ご意見箱を設置しているが、事務所内の掲示や設置である。3ヶ月に1回、家族が自主的に家族会を開催し、意見交換が行われている。家族代表は運営推進会議に参加して、レクリエーションや誕生会などの行事に対する意見を出している。	○	重要事項説明書の掲示やご意見箱は玄関や共用空間等に設置することで、家族の意見等の更なる反映を期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者との人間関係を重視し、系列の事業所への異動も最小限にしている。又、職員がステップアップ時に離職する現状があるが、新しい職員の丁寧な関わりや主任職員の配慮ある関わりにて、入居者への影響を防いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用には性別・年齢の制限はなく、「介護が好きであること」を重視して採用している。就業規則、雇用契約書が整備され、定期健康診断も実施している。職員の休息の場は事務所を利用している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権研修には毎年参加し、身体拘束防止マニュアルを整備している。日ごろのミーティングで管理者が人権について話しているが、人権教育・啓発活動のパンフレットの整備がされていない。入居者の日常生活の中でその人らしさを大切に「言葉」の重みを考慮した日常の支援に努めているので、穏やかな対応である。	○	研修や伝達講習の議事録および人権養育・啓発活動のパンフレットを整備し、周知、啓発活動に努められることを期待します。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、随時参加している。参加した研修はミーティング等で伝達している。スーパーバイザーはいないが、主任・管理者が職員の相談に応じている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国のグループホーム協議会に加入し、全国大会に参加している。グループホームの運営者の会合を通して職員の資質についてなど意見を交換している。また、運営者が以前勤務していた介護老人福祉施設と交流している。	○	今後は地域密着型サービスとして、地域の同業者との意見交換や連携でさらなるケアの向上を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービスの利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院や自宅復帰、また他のホームへの入居で、ここ1年で7名の入居があった。病院からの入居者が多く、入居者や家族とホームの生活についてよく話したり、時に見学をして頂き、退院時に荷物を持ち込むなど入院前の生活環境を再現するなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が率直に日頃から話したり、日常生活のやり取りをしながら日々の生活を楽しんでいる。入居者が料理の下ごしらえや後片付けをしながら昔の腕を振るっている光景もあり、入居者と職員が寄り添って生活していることが伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や生活のペースを日々の関わりから把握したり、東京センター方式で丁寧なアセスメントをしているが、情報が整備されていない。また、職員が把握した情報の共有及び活用が不十分である。入居者や家族の希望や願いを介護計画書に記載している。	○	フェイスシートや居宅サービス計画書3表の記録を整備することで、情報の共有や活用をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向を把握した担当職員が作成した介護計画を毎月の会議で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成しているが、会議録の整備が不十分である。職員が介護計画に沿って毎日の支援が実施できるように、介護計画書・支援経過記録・業務記録で把握している。	○	より具体的で個別性のある介護計画を作成するために、担当職員や介護支援専門員等全職員による話し合いの機会を設けていただきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が介護計画の進捗状況を記載したモニタリングをパソコンで管理しているので、ケア内容との連動が明確でない。また、介護計画が事業所内に保管されていない。見直し介護計画は入居者や家族に説明し、家族の署名がある。	○	定期及び随時モニタリングや評価を実施し、連続性のある介護計画の作成や介護計画を共有するためにも事業所内の管理をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、酸素療法や留置カテーテル等の必要な入居者も支援している。又、通院の支援を行ったり、入居前の部屋のかたづけや家の取り壊しなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する精神科・眼科・歯科・総合科等の医療機関受診を支援している。協力医療機関受診へ直接家族が同行する時はバイタル等の情報を持参してもらっている。かかりつけ医受診には管理者や職員が同行し、受診情報を職員に周知したり、家族にも随時報告し、記録を整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を整備しているが、入居者・家族の意向の確認や重度化と看取りの対応の明確化などの具体的な対応マニュアルが整備されていない。主治医・訪問看護師等で、グループホーム療養介護共同計画書の作成に取り組む予定である。現在まで1名の看取りをしている。	○	利用者・家族の意向確認書や重度化や看取りの具体的な対応マニュアルの整備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いや守秘義務を運営規程や重要事項説明書に明記し、入居者や家族に説明し同意を得ている。運営規程は玄関に掲示している。職員は、入居者の人権やプライバシーを配慮した声かけや対応をしている。	○	個人情報の取り扱いに具体的な個人情報の利用目的を明記し、入居者や家族への説明や配布、事業所内の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、各入居者のペースや意向に応じて昼食や入浴、外出を支援している。毎日犬の散歩に出かけたり、山菜採りに行ったり、地藏参りをしたりとその人らしさの表出に配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに沿った食材の買い物や入居者の力量に応じて下ごしらえ、片付け等を支援している。訪問調査当日は入居者が職員と作ったカレーライスの味付けなどを話題にしなが、職員は同じテーブルで伴食している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や入る順番は決めているが、19:00時までは入浴を支援したりと出来る限り希望に沿っている。入浴拒否には家族に支援をお願いすることもあるが、日頃の人間関係が大切であることを念頭に置き関わっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、らっきょう漬けなど入居者の経験を發揮してもらっている。入居者と地域のゴミ置き場の清掃をしたり、公民館行事の敬老会に参加している。入居者が作成した貼り絵等を展示した今年の事業所主催の文化祭には、地域、家族、行政関係者等14～15名が訪れ、入居者も大変喜んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画に沿って、花見や食事会等に出かけている。時に墓参りなどの付き添いもしている。希望に応じて随時近隣のスーパーへ出かけ、日用品の買い物の支援をしている。家族は按摩に連れて行ったり、彼岸のお参りに同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠している。外出傾向のある入居者は生活リズムや動向を把握し、その日の状態によりセンサーを稼働したり、職員が対応している。全入居者の顔写真を準備し、地元の消防団や区長を通じて住民に協力をお願いしている。又、防犯のため玄関先に犬を飼っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡体制を整備し、池尻小学校が避難場所であることを周知している。地元の消防団との連携や区長を通じて近隣への協力を呼びかけている。避難訓練が実施されているが記録の整備がない。又消火器は整備されているが、災害に備えての備蓄がない。喫煙場所を戸外にして火災予防に心がけている。	○	今後も運営推進会議や家族会等を通じて、避難訓練に地域の方々や家族に協力依頼をし、早期の訓練をお願いしたい。備蓄の準備もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列事業所の栄養士に献立のアドバイスをを受け、1日1600Kcalで提供している。個人記録に食事摂取量を記録し、水分摂取量は大まかに把握されている。又、入居者の心身の状況に応じた栄養確保に努めている。月に2回体重測定を行い、今のところ体重に変化は無い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には木製のベンチが設置されている。玄関先の犬が訪問者を威嚇する様に吼えているが、入居さんが宥め大人しくなるなどアットホームな雰囲気である。段差のない玄関に入ると、ホームはバリアフリー構造で、共用空間はテーブルや椅子、ソファ、両位置から視聴できる大型のテレビが設置され、壁には入居者の手作りした作品が飾られ、入居者の寛ぎの場になっている。2ヶ所にトイレが設置されているが、毎日ハイターで壁・床・手摺等を拭き上げて、防臭に配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆箆等の馴染みの家具や日用品が持ち込まれ、また自作の作品や写真などを飾り過ごし易い居室づくりをしている。入居間もない入居者の居室は、壁に大きな歓迎のポスターがはってあり、部屋を明るくしている。入居者には好評である。		